

ジャパン・インスティテュート

ポートランド日本庭園
世界に向けた文化発信への取り組み



PORTLAND JAPANESE GARDEN

JAPAN INSTITUTE



平和への希求

This present moment
that lives on
to become
long ago

ゲーリー・スナイダー

ポートランド日本庭園は、第二次世界大戦が残した日米間の傷跡を癒やすため、地元の有志によって1963年に創設されました。ポートランド市民の日本文化への理解を深めることを目的に、日本の美の象徴として日本庭園が作庭されたのです。それ以来庭園は、日本庭園文化の紹介にとどまらず、より深淵で本質的なものを人々にもたらしてきました。

日本庭園のミュージアムと称されることも多い弊園は、来園される全ての人に実体験と学びをもたらす「生きた教室」とも言え、それは庭園に足を踏み入れた瞬間から感じ取ることができます。心臓の鼓動が静まるにつれ脈打つ音は緩やかになり、心が開放されると同時に五感が研ぎ澄まされるのを感じることができるでしょう。それは、日本庭園が人間の内面性に作用することを示唆します。



人々は庭園がもたらす心の平穏という効果にいち早く気付き、そこから、庭園という場を介して内面的な安寧がもたらされ、さらには戦争によって憎しみを抱えた人々の間の友好と和平が構築できるという希望が生まれました。創設から60年が経ち、今ではポートランド日本庭園の名は人々の知るところとなり、弊園は真正な日本庭園の管理と質の高いプログラムの提供や各種活動を通して、北米における最大の日本文化発信機関の一つへと成長いたしました。今や地元コミュニティーだけでなく、全米および世界中から、庭園の美しさと日本文化へ触れるために多くの人々に来園いただけるようになりました。

現在、年間50万人近い人々がポートランド日本庭園を訪れます。来園者は口々に「平穏」「静寂」「やすらぎ」に触れたという感想を残して帰路につかれます。中には「自身の中にある日本のルーツの発見」「アジアの文化が称賛される安全な場所」「海の向こうの外国に過ぎなかった日本を理解する旅路の端緒」などと来園体験を表現される方もいます。

ポートランド日本庭園は、個々人の平和の体験が、ひいては世界恒久平和へとつながるのではという人々の願いから生まれました。多様化するコミュニティー間での分断や暴力行為が広がりつつある今こそ、私どものような組織の存在意義が、今まで以上に問われていると考えます。

さらには、弊園が発展していく過程において、私どものミッションは優れた日本庭園を維持管理していくだけでなく、より友好的で持続可能な世界を実現するために文化外交を牽引することであると認識するようになりました。



ジャパン・インスティテュート

Inspiring Harmony and Peace

このたび私どもは、ポートランド日本庭園のミッションである「Inspiring Harmony & Peace」という、調和と平和を促す弊園の活動をさらに推し進めるべく、ジャパン・インスティテュート（以下、インスティテュート）を設立します。自然に囲まれた場所にて、知的かつ創造的な環境を創出する文化・芸術・自然に関わるプログラムを通して、世界の人々の自己理解、ひいては相互理解を促します。

インスティテュートは、弊園のプログラムを世界へ発信し国際的なパートナーシップを拡大すること、そして世界恒久平和や日本文化の美学や自然へのつながりを、体験や対話を通じて多様な人々と共有する場を引き続き提供すること目的とします。幅広い年齢層を対象とした斬新な国際プログラムやグローバルコラボレーションの促進、また体験教育を特徴とするインスティテュートは、以下の3つのセンターで成り立ちます。

1. Global Center for Culture and Art
   略称：文化芸術センター
2. International Exchange Forum
   略称：国際フォーラム
3. International Japanese Garden Training Center
   略称：トレーニングセンター


Global Center
for Culture and Art
略称：文化芸術センター
THE JAPAN
INSTITUTE
International
Japanese Garden
Training Center
略称：トレーニングセンター
International
Exchange Forum
略称：国際フォーラム







文化芸術センター

The Global Center for Culture and Art（以下、文化芸術センター）では、日本固有の伝統文化や芸術の視点から人間と自然との相互関係について探求します。日本語能力や事前知識がなくとも習得できるよう、ビジュアルアーツやパフォーミングアーツに加え、書道、茶道、漆芸、盆栽、歌舞伎、華道といった伝統文化を直に体感できるプログラムを提供します。



美と静寂あふれるポートランド日本庭園内にて、あるいは遠隔地から日本の芸術や伝統文化に先入観なく接し語り合うことで、参加者の思考と好奇心をかき立てます。より多くの人が参加できる包括的なアプローチを併せ持つプログラムは、未知の世界や創造への理解を深める可能性を引き出し、また人々の対話を促進します。

新たに見聞きすることや挑戦に対し心を開き、未知の創造物への理解を受け入れ、そこから生まれる人々との対話を育むことが、センターの目的です。



ポートランド日本庭園および文化芸術センターは、日本の心と真髄を体験する入口となるでしょう。日本のアーティストや専門家を紹介するだけでなく、日本の影響が色濃い場所や、あるいは日本の文化芸術との好対照となるような場所からも多様な人材を招聘します。



ポートランド日本庭園は、庭園を訪れるすべての人に多くの体験的な学びを提供する「生きた教室」です

学びの内容は多岐にわたり、それは庭園に足を踏み入れた瞬間から感じ取ることができるでしょう



文化芸術センターでは、現代アーティストや多様な分野の作家を主な対象とし、アーティスト同士あるいは世界各地の人々との対話の機会を創出します。国際プログラムのさらなる拡充に伴うバーチャルプログラムの導入は、これらのアーティスト間の創造や対話を促進すると同時に革新的な協働の機会を作り、長期的な友好関係を築くことでしょう。

文化芸術センターのプログラムの中には、展覧会や巡回展、アーティスト・イン・レジデンスに加え、和食文化シリーズ、五節句、茶道、華道、盆栽、書道、俳句などのクラスやデモンストレーション、工芸ワークショップ、パフォーミングアーツなど、さまざまなジャンルのメディアを使った新しいアート作品のコミッションワークがあります。また日本国外においてなかなか体験する機会がない流鏑馬や相撲を紹介する計画もあります。無数のアーティストや専門家の活躍をサポートしながら、多様な日本文化と芸術形態を世界へ発信します。





2022年、ロンドンで開催したピース・シンポジウムで開会の挨拶をするリチャード・デヴェレル英国キュー王立植物園ディレクター
写真：カイル・マンノック

国際フォーラム



The International Exchange Forum（以下、国際フォーラム）では、職人の手仕事への深い理解や自然への畏敬、内面的な安寧と同時に他者との調和の希求といった、世界的に普遍な日本文化の「心」とその理念や精神性を探求するコミュニティーを形成するとともに、その共通の志を持つ個人や組織をつなぎ、対話を促進します。国際フォーラムに世界各地から集い共に関係性を築いた参加者たちは、新たな発想やアイデアを共に模索しながら理論と実践を推し進め、互いを尊重しつつ日本庭園と庭園文化の理想について対話と協働を重ねます。

「庭園、景観、園芸、平和」という概念を結びつけるものとして、さまざまなことが想起されると思います。庭園について考えるとき、おそらく最も明白なのは、庭園は安全と静寂を提供する場であるということではないでしょうか。庭園は人々に、活動的かつ誠実であることを促し、また人々の間にある障壁を取り除くことにも一役買ってくれます。たとえ怒りや悩みを抱えていたとしても、庭に身を置くことでそうした感情が和らぐこともあるでしょう。庭は広い意味で、公共に開かれた安全な場という役割を担っているのです。

リチャード・デヴェレル
英国キュー王立植物園 ディレクター
2022年開催ピース・シンポジウム（於 ロンドン）

カンファレンスとシンポジウム

インスティテュートは世界恒久平和の構築、文化芸術の体験、人と人とのつながりを認識し対話を促進するカンファレンスやシンポジウムを、業種や組織や国を超えて定期的に開催します。そこで交わされる対話を発端に、参加者間に強固な関係と相互理解が生まれ、さらなる対話や将来的なコラボレーションが生まれることを目指します。

ジャパン・インスティテュートは、3年間に亘って世界6大陸でピース・シンポジウムを開催予定です

2022年　東京（日本）

2022年　ロンドン（イギリス）

2023年　ニューヨーク（アメリカ）

2023年　ヨハネスブルグ（南アメリカ）

2024年　サンパウロ（ブラジル）

2024年　シドニー（オーストラリア）

ジャパン・インスティテュートのピース・シンポジウムは、
ロバート&デボラ・ザグニスご夫妻のご支援により
実施されています。



カースティ・フログスタッド
ノーベル平和センター
ディレクター
写真：ヘイリー・マッデン

国際文化機関とのコラボレーション・プログラム

国や文化を超えたグローバルな関係性は、国際社会における多様なコミュニティーにとって不可欠な対話や協働の機会を可能にします。

インスティテュートの発足に先駆けて、ポートランド日本庭園では以下のプロジェクトを含むさまざまな連携事業を行ってきました。

- **妙心寺　退蔵院（京都）、公益財団法人　国際文化会館（東京）、けいはんな記念公園（京都）の各機関と日本庭園文化の発展に資する交流協力提携を締結。同姉妹機関関係をモデルとし、新たな相互協力提携先・姉妹協定関係を開拓予定**

「ポートランド日本庭園は、自然とのつながり・教育普及・相互理解のプラットフォームとなる、世界でも屈指の日本関連団体です」

キャロライン・ケネディー

元駐日米国全権大使

2015年、東日本大震災で流出、オレゴン沿岸に漂着した鳥居の一部をポートランド日本庭園が主体となり日本へ返還。
横浜での式典にてご挨拶をされるキャロライン・ケネディー駐日米国全権大使（当時）





クリスティーヌ・ラガルド 国際通貨基金専務理事（当時）がポートランド日本庭園を訪問

（前頁続き）

- **日本国政府が支援するジャパン・ソサエティーとの共同プログラム「Living Traditions」ウェビナーシリーズでは、数百年続く日本の伝統が今日の大衆文化にもたらしている影響を検証**
- **文部科学省（日本）、日本庭園協会、北米日本庭園協会、その他の組織・団体と協力し、日本庭園芸術というアートフォームをユネスコ無形文化遺産登録に推薦するプログラム（2016〜2022年）**

2022年以降も各種カンファレンスを開し、多くの庭園や日本文化機関とグローバルレベルでの連携を確立、展開します。

- **第1回　North American Japanese Cultural Conference （仮訳「北米日本文化カンファレンス」）2024年6月 於 ポートランド**
- **第1回　Great Gardens of the World Leadership Forum（仮訳「世界庭園リーダーシップ・フォーラム」）2026年7月 於 ポートランド**



高円宮妃久子殿下、承子女王殿下、ラーム・エマニュエル駐日米国全権大使とスティーブ・ブルーム ポートランド日本庭園・ジャパン・インスティテュートCEO（左）2022年開催ピース・シンポジウム （於 東京）の翌日、駐日米国大使公邸でのレセプションにて
写真： ケン・カツラヤマ



ポートランド日本庭園催行の日本トラベルツアーで、細川護熙元首相のアートスタジオを訪問

インターナショナル・トラベルツアー

国際フォーラムでは、世界各地にある日本庭園や日本の文化芸術を日本国外から対照的に見て体験する、ポートランド日本庭園独自のプライベート・トラベルツアーを催行します。従来は日本国内のみで　実施していましたが、今後はツアーの対象を日本国外にも広げ、海外の異文化で発達・発展した庭園やそのアートフォームを比較し、世界観を広げるとともに相互理解と交流を深めます。





ロンドンの米国大使館で開催したポートランド日本庭園・ジャパン・インスティテュート主催レセプションにて
写真：ヘイリー・マッデン



ポートランド日本庭園プライベートツアー。2022年 オスロー（ノルウェー）のノーベル平和センター前にて

国際的組織や機関との戦略的な交流

国際フォーラムは、学識経験者、専門家、職人、アーティストのグローバルレベルのネットワーク構築を促進し、さまざまな問題や事例について議論・意見交換をする場を提供します。この「ラウンドテーブル」での意見交換は、地元ポートランドにとどまらず世界各地で行われる他、バーチャル技術を用いて世界各地を結びます。



トレーニングセンター



The International Japanese Garden Training Center（以下、トレーニングセンター）は、広い受講者層が日本庭園と造園技術の習得や知識を深める学び舎となることを目的とし、アマチュアからプロの造園従事者までそれぞれのレベルに対応したプログラムを提供します。自然への畏敬の念を育て、異なる背景を持つ受講生が、共に日本文化を知る第一歩を踏み出すプログラムを用意しています。さまざまな日本の伝統文化や庭園芸術の精神性を学ぶことにより、異文化への共感を育みさらなる対話を促進していきます。

このトレーニングセンターは、本格的な庭園技術の習得の場としては日本国外で唯一の機関です。日本庭園従事者に必要とされる庭園文化や芸術の知識の共有に加え、時代に即したアイデアを育むことを目指すとともに、日本庭園という生きた伝統を継承し育成・共有します。造園設計や施工、維持管理に必要な知識と技術を伝授すると同時に、日本庭園芸術やその美学の学び舎として、第一線で活躍する日本庭園従事者を育成します。

従来、日本で庭師になるには、師匠のもとで修行をするという従弟制度が基本ですが、トレーニングセンターでは、座学で習得するという西洋的なアプローチと、実技を通して心身共に学ぶという日本的なアプローチの両方に注目します。

日本では生涯を通じて庭を造り育てるという考え方から、熟練した庭師になるには20年かかると言われます。そこには、永遠に生きる庭を造るには、蓄積した知恵を後世へ継承していかなければならないという重要な意味が含まれます。また、日本庭園の原点は、茶道や華道、書道、俳句、盆栽などの伝統文化の精神に密接に関連し、あらゆるアートフォームの美的センスを養うことが、一人前の庭師として成長するのに必須とされます。





しかしながら、この21世紀にそのような時間がある人は少ないでしょう。そこで、急速に成長するテクノロジーとバーチャル学習という新しいアプローチを駆使し、知識継承の新たな道筋を開発していくことが求められています。トレーニングセンターでは、伝統的な実技から学ぶアプローチに加え多種多様な学習ツールを導入しつつ、日本庭園芸術という総合的なアートフォームを学んでいきます。

2008年以降トレーニングセンターは、多くの学術機関や造園設計および建築関係のシンクタンク、企業、団体、そして著名庭園機関とのパートナーシップを築いてきました。これらのパートナーシップを通じて新しい教育目標と学習方法の形をさらに進化させると同時に、トップレベルのアドバイザーや教授陣を迎えることができました。将来的にはトレーニングセンターの人材資源やネットワークを、日本国内外のパートナー組織や機関のプログラム開発実施のサポートにも生かしていく予定です。

ジャパン・インスティテュート
サテライトキャンパス

敷地：3.64エーカー（約14,800平方キロメートル）




宿泊施設
講堂
ゲストハウス
管理棟・ワークショップスペース
NW ALEXANDRA AVENUE
N


















Interlorscapes by
FIRST EDITIONS




AWA USA
ace Foundation USA
PORTLAND JAPANESE GARDEN





PORTLAND JAPANESE GARDEN

JAPAN INSTITUTE